

福島を訪問して思うこと

2013年法学部卒業 山脇 志帆子

知人に「福島に行く」と伝えると、決まって返ってきた言葉がある。「何で?」「ボランティアに行くの?」。私自身も、何か役に立てれば、と気負っており、現地に降り立った時、少しばかり拍子抜けしたというのが本音である。飛行機からの景色は、私が想像していたものとは違っていた。倒れたままの家屋が見えるわけでもなく、荒れた地が見えるでもなく、色づき始めた山々や、広々とした田園風景が広がっている。優美な自然があった。

福島は元気である。現実にもそう感じた。観光日的で、なぜこれまで来なかったのであろうか。こんなに雄大な自然があり、温泉があり、人望が厚い日本の郷里。忘れていた心の豊かさを教えてもらった。観光で福島に行こうなんて、今まで思わなかった。福島のことを全く知らなかった。知ろうとしていなかった。無知な自分を思い知り、何も知らないのに支援したいと考えていた自分を恥じた。まず、知ることから始めなければならない。

「福島は5つの被災」で苦しんでいる。「地震、津波、原発、風評被害、忘却」。正しいことを知り、見て、聞いて、感じて、考えていかなければならない。目に見えないものとの戦いは想像以上に大変で、マスコミに情報だけをうのみにしてはいけない。一自分で考える事を止めてはいけない。そう感じた。

福島県って広いんよ。「ふくしま」って一声にいうけど、どこをさしているのか。福島市に福島原発があるのではない。そんなことすらも知らなかった。自分の中で、「ふくしま、原発・放射能・危ない」、それ以上、考えたり、知ろうすることもなく、思考停止がおこっていた。

訪問後のいま、家族や友人にも福島県の自然や食、文化に触れてほしいと思う。ゆっくり観光したいと思う。いままで「観光で福島に行く」と考えたことが無かった。これからは福島の良いさをみんなに伝えたい。これからはスキーの時期に入る。温泉が気持ち良い季節でもある。

最後に福祉までの感動したのは「人の温かさ、強さ」である。過去の傷は大きすぎて、現実には背負う問題が大きすぎて、言葉では表せないほどの困難をいくつも乗り越え、いまも立ち向かっているが、福島の人々は前向きで明るく、一歩ずつすすんでいる。笑顔で迎えてくれる。その強さに心打たれた。今後何か力になりたい、そう思った。